

一日研修会

9月18日(日)北区赤羽会館にて城北ブロック担当の一日研修会が開催されました。

午前は北区議員の斉藤りえ氏、

テーマは「人の心の聞こえる町に」

斉藤さんの生い立ちからアパレル、筆談ホステスの仕事、そして今の議員にいたるまでをお話いただきました。

午後は砂田アトム氏の「アトムから見た手話の世界」 聴アパレルギーの克服(?)やろう者から見た聴者の不思議な行動等会場からは笑い声が絶えない講演でした。アトムさんの”聞こえない事は不便だけど不幸ではない”の言葉が強く残っています。

参加された皆様はいかがでしたでしょうか?

今回の講演会に467名もの方に来ていただきました。これは、今までの都サ連一日研修会で最高の参加人数だそうです。本当にありがとうございました。

(手話サークル「すみだ」 臼倉)

大学生からみた一日研修会

午前の斎藤さんの講演でいろいろなお仕事の実験談を聞き、私たち健常者の中ではまだまだバリアフリーの感覚というものが普及していない部分も多いのだと改めて感じました。斎藤さんの政治参加をきっかけに聴覚障がいや、その他の障がいについても少しずつ理解されるような社会になっているのかなとも思います。同時に、私自身も手話を学んでいる身としてなにかできることはないかこれからも考えていきたいと思いました。

午後の砂田さんの講演では、とにかく手話についていくのが大変で残念ながら読み取れなかった部分も多く、これがろう者の方々が普段感じている世界なのかと、純粋に感動しました。

私たちはわかったつもりでいても、本当の意味ではろう者のみなさんの感じる場の空気を共有できないつらさを理解できていなかったのだと思いました。このことが分かって障がい者の方との関わり方は大きく変わると思うし、ぜひこの感覚を多くの人にも知ってほしいと強く思いました

(駒澤大学 手話サークル「かえで」)

午前の部の斉藤りえさんの講演会ではりえさんの幼少期の話、アパレルショップの店員時代の話、ホステス時代の話、子育ての話、政治家としてのりえさんの話の中で、聴覚障害を持っている方ならではの苦労やそれをどうやって乗り越えたのか、りえさんの例を聞いて今後の自分の人生の中でも似たような状況に陥った際にどうやって乗り越えるべきか、その指針をいただいた気がしました。午後の部の砂田アトムさんの講演会では、音声通訳なしでの1時間半だったので大変だったのですが、徐々に慣れていき講演会の後は逆に音声通訳がつくと読み取れない状況になっていました。講演会の内容もろうの方の幼少期の体験など普段は聞くことのできない内容だったので、とても刺激的な講演会でした。

(早稲田大学手話さあくる)

斎藤りえさんが耳が聞こえないとはどういう世界なのか、というテーマの内容を聞くことができ貴重でした。ピアノを弾くとき、仕事をするとき、選挙活動するとき、それぞれ周りの協力を得て工夫を凝らして来たんだと知りました。障害があるから出来ないではなく、障害があっても出来ることはあると仰っていた斎藤さんからチャレンジ精神の強さを感じました。砂田アトムさんの全編手話で通じた講演は、手話の勉強不足でほとんど読み取れなかったものの、全身で精一杯手話表現している人を見たのは初めてでした。手話を勉強するときは単語を覚えるだけでなく、知らない手話表現があってもとにかく手話の読み取りの練習を重ねていくことが大切だと学びました。

(大正大学手話サークル pockey)

今回初めて都サ連の研修会に参加しました。

非常に興味深いお話を聞くことができました。

私は大学のサークルで手話を勉強していますが、私の身近に難聴者・ろうあ者がそれほど多くいるわけではありません。手話を勉強する機会があっても、改めて、手話を日常言語として使われている方のお話を聞く機会はありません。今回のような機会を通して、手話を単なる言語として捉えることなく、手話話者の文化についての理解を少しでも深めることができると思います。

(東京大学手話サークルしゅわっち)

「関東ろう者大会 in TOKYO」に、高田代表が登壇しました！

9月24日～25日の二日間、国立オリンピック記念青少年センターで開催された大会の、特別分科会（2）に都サ連の高田代表が登壇しました。この分科会は、『手話でMyself. Yourself ～あなたのことば、わたしの言葉～』と題され、司会は東京都聴覚障害者連盟（以下、東聴連）の春日教育労働対策部長です。

〈第一部 基調講演と活動報告〉

トップバッターの高田代表から『手話サークルと聞こえない人の関わりについて』の講演。2011年の東日本大震災以降の、東北の県手話サークル連絡協議会（以下、県手連）とのつながり、そして、今年の九州手話サークル連絡協議会（以下、九手連）との交流を通じ、これらの地におけるろう団体と手話サークルとの絆の深さにとっても驚いたという報告です。一方、都サ連の現加盟サークルは26（約3000人の会員）、未加盟のサークルも含めて、どのような関わりで活動するのかを模索中という胸中也吐露。また、「手話サークル関係年表」が示され、1973年には全国手話サークル連絡会が存在、活動していたという事実報告もありました。

さらに、東日本大震災では、鎮守の森が防災林の役割を果たして神社を守った例がいくつもありますが、まさに、聞こえない人たちの囲む手話サークルの関係に似ているのではないかとの示唆がありました。

その後、東京都手話通訳問題研究会の江原事務局長、東京手話通訳等派遣センターの高岡所長、東聴連の加藤手話対策部長が登壇されました。

午後は、東聴連の栗野会長も加わってのパネルディスカッションです。

高田代表は、東聴連と良好な関係を築きつつ活動を進めたいと話しました。

江原事務局長は、運動の大切さを強調。障害者差別解消法が施行された今、手話通訳のあり方を再検討したいとの課題。

高岡所長は、聞こえない人の生活と権利を守るためにも、手話通訳者の身分保障を求めていきたいという構想。

加藤部長は、当事者意識を持つことが重要である。手話通訳者の身分保障も、共に運動して解決していきたいとのお話でした。

〈第二部 手話に関するパフォーマンス〉

他県や昔の手話、外国の手話を交えたクイズです。初めて見る表現に驚き、出題者として動画に登場した栗野会長や東聴連の面々にも盛り上がりました。

さて、全国初の手話サークルは京都の「みみずく」（昭和38年）であることは、よく知られています。それから半世紀余……。日本は、諸外国とは全く異なり、その風土に合った形で、徐々に手話が広まったように感じます。遅々として、らせん階段を上ようですが、それでも確実に上へ伸びています。

手話を学ぶ私たちには、聞こえない人たちのことを社会に広めていく役割があります。また、手話サークルは、聞こえない人たちの運動を支持し、協力する団体です。あらためて歴史を振り返り、そして未来へ向かって、意義ある活動を展開していきましょう！

（事務局 林）

「TOKYO みみカレッジ～かたち色々コミュニケーション。言葉はひとつじゃない～」

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、聴覚障がい者が、安心して東京を訪れることができるよう、首都大学東京、東京都、他との協働で、手話及び聴覚障害についての理解と関心を深めることを目的としたイベントを開催します。

1 日 時 平成28年11月13日（日曜日）10時00分から16時30分まで

2 会 場 首都大学東京南大沢キャンパス（八王子市南大沢一丁目1番）

3 主 催 東京都

4 共 催 公立大学法人首都大学東京、他

5 協 力 東京都聴覚障害者連盟、東京都中途失聴・難聴者協会

6 参加者 都内在住・在学の学生及び一般参加者

（入場無料。ワークショップのみ要事前申込）